

# 人はなぜ買い溜めをするのか

—時間不安に着目して—

1721072 加藤 風花

Key words: 買い溜め行動, 時間不安

## 目的

本研究では、買い溜め行動を規定する要因として時間不安に着目した検討を行う。時間不安とは、時間の経過それ自体を脅威の対象とした不安のことであり、強迫神経症との関連が示されている特性的な不安感情である (Winnubst, 1988 生和・内田訳, 1992)。先行研究では、震災時の不安感情や (松本・林・立木, 2011)、強迫的な性格傾向 (池内, 2014) 等と買い溜め行動の関連が示唆されていることから、時間不安が高いと買い溜め行動をしやすくなると予測した。

本研究では、(1) 買い溜め行動傾向、(2) コロナ禍の買い溜め行動、(3) シナリオ場面の製品の入手意図のそれぞれにおける時間不安の影響を検討した。

手続き 調査参加者は、大分大学の学生 106 名 (男性 53 名, 女性 53 名。平均年齢 20.34 歳,  $SD=1.26$ ) であった。Google フォームで作成した Web 調査 (場面想定法実験) を用い、講義中に調査協力を呼びかけて回答を得た。調査参加者は個人属性、時間不安測定尺度 (生和・内田, 1992)、強迫性購買尺度 (Edwards, 1993) 等の普段の自身の行動や性格に関する質問に回答した。その後、COVID-19 (以下、コロナ禍) に関する質問項目に回答した。最後に、被験者間で条件を操作したシナリオを読み、シナリオで提示された場面を想定した上で質問に回答した。なお、状態的な不安の測定のため普段・コロナ禍・シナリオ場面のそれぞれにおいて、ストレス簡易調査票 (独立行政法人 労働安全衛生総合研究所, 2010) の不安因子 3 項目への回答を求めている。なお、本研究では、買い溜め行動傾向を測定する尺度として強迫性購買尺度を用いている。

## 結果

尺度の分析 コロナ前不安 ( $\alpha=.85$ )、コロナ後不安 ( $\alpha=.83$ )、シナリオ不安 ( $\alpha=.89$ ) については十分に信頼性の高い  $\alpha$  係数が得られたので平均値で尺度得点を算出した。探索的因子分析 (最尤法, プロマックス回転) の結果、コロナ買い溜め ( $\alpha=.80$ )、シナリオ場面における製品の入手意図 ( $\alpha=.90$ ) については、1 因子、時間不安測定尺度については「時間不安 I ( $\alpha=.88$ )」、「時間不安 A ( $\alpha=.88$ )」の 2 因子が抽出され、強迫性購買尺度は因子負荷量の低い 2 項目を削除した 1 因子の買い溜め行動傾向 ( $\alpha$

$=.89$ ) として扱うこととした。時間不安 I は、「待つあいだの時間は、ただ無駄のような気がする。」などの 10 項目、時間不安 A は、「予定の立たない状況におかれるのは不安だ。」などの 10 項目から構成される因子である。

時間不安が買い溜め行動傾向に及ぼす影響 買い溜め行動傾向を目的変数とした重回帰分析を行ったところ (Table 1)、時間不安 I には有意な標準変回帰係数が認められた ( $\beta=.21$ ,  $R^2=.20$ ,  $b=0.22$ ,  $SE=0.10$ ,  $t(99)=2.20$ ,  $p<.01$ )。

Table 1

変数名	買い溜め行動傾向
性別 (0: 男性, 1: 女性)	.12
年齢	-.02
時間不安 I	.21 *
時間不安 A	.19
コロナ前不安	.23 *
コロナ後不安	.02
$R^2$	.20 **

\*\*  $p<.01$ , \*  $p<.05$

## 考察

(1) ~ (3) について検討した結果、(1) 買い溜め行動傾向においてのみ時間不安の有意な影響が見られた。(1) 以外の場面において時間不安の影響が示されなかった原因として、(2) ではコロナ禍という危機的状況が、(3) では自作のシナリオや質問項目に課題があった可能性が挙げられる。(1) については、時間不安 I 因子が買い溜め行動傾向に影響を与えることが示された。一方で、本研究の結果が、時間不安だけでなく、全般的な特性不安にも共通して得られる結果であるのか、時間不安においてのみ得られた結果であるのかという点には検討の余地がある。また、時間不安 I 因子は自分の時間的枠組みや流れが遮断されることに対する怒りを表す因子であることから、特性的な怒り感情と買い溜め行動の関係を明らかにすることが今後の研究の展望として考えられる。

Winnubst, J. A. M. (1988). Time Anxiety and Type A Behavior. *New York: Hemisphere*, 11.

生和 秀敏・内田 信行 (1992). 時間不安の測定 広島大学総合科学部紀要. 情報行動科学研究, 15, pp. 71-85.